

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		学術研究の変容とミスコンダクトについての人文学・社会科学研究			
研究テーマ名		責任ある研究・イノベーションのための組織と社会			
研究代表者	所属機関	国立大学法人大阪大学			
	部局	大学院医学系研究科			
	役職	准教授	氏名	吉澤 剛	
委託研究費		単位：千円			
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
2,500	3,450	3,200	2,250		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

学術研究のあり方は産学連携などイノベーションの推進とともに大きく変容しており、研究不正問題もそのような学術研究の変容と切り離せない。そこで本研究では、第一に、責任あるイノベーションの基盤となる「信頼性の高い知識を生み出す学術研究のあり方」として、学術研究の信頼性をいかに確保するのかについて、研究不正問題の実態や要因を明らかにするとともに、近年の学術研究の変容を見据えたうえで、責任ある研究活動を推進するための方策について検討する。第二に、「イノベーションの創出のための研究組織の革新」として、責任ある研究活動を推進してイノベーションを生み出す研究組織のあり方や、その基盤となる学術研究の推進方策を議論する。

本研究では、先行研究レビューや、国内学会・有名学術誌の倫理綱領や行動規範、投稿規定等の分析を行い、研究公正・研究倫理の教育及び研究遂行に伴う現状整理や、論点・課題の抽出を進めた。その後、研究不正対策にとどまらず広く責任ある研究のための活動を洗い出し、生命科学分野を中心とする会員数1000名を超える52の学協会について、ホームページの調査分析を行った。その結果、学会指針において捏造・改竄・剽窃（FFP）に関する条項は3割近くの学会で言及がなされていたものの、デュアルユース、ハンディキャップ／マイノリティへの配慮、差別禁止への言及例は少ないことが明らかとなった。また、責任ある研究を推進するための資金配分機関のあり方に着目し、各機関の実務者と協働しながら、多様な関係者の関与・参画、熟慮・熟議における幅広い視点の織り込み、将来の技術や社会への展望などの取り組みの実態について、アクションリサーチを実施した。責任ある研究・イノベーション（RRI）という学術的議論に国内で先鞭をつけることにより、政策研究大学院大学（GRIPS）や海外研究プロジェクト等との協働を深め、外部専門家の協力を得ながら日本におけるRRIの実践をまとめることができた。その過程では、大学や学協会といった研究組織のそのものを問い直す議論や活動を展開し、それらの補完的な主体として、地域に根ざした責任ある研究活動を試行的に実践した。人文・社会科学研究分野はもとより、生命科学などを中心とする自然科学研究分野との継続的な連携を達成し、さらに、地域における問題解決を志向したトランスディシプリナリー研究、市民科学やボトムアップイノベーションの今後の議論の方向性に大きな影響を与えた。